

このニュースレターの主な掲載情報:

- グローバルな政治・経済、マーケットの最新情報や分析見通し
- BFSのサービス、実際のトピックス、ケーススタディ
- 資産運用や人生設計に役立つ情報
- 知っておくと得するホットな情報

上場投資信託(ETF)は資産運用の便利なツール

上場投資信託(Exchange Traded Fund)は資産運用の有用なツールとして、近年急速に拡大しています。2011年3月には世界で1兆4000億ドル(約109兆円)の残高に膨らんでいます。

ETFには以下の特徴があります。

1. 日経平均、S&P500指数などの指数に連動するようにしている。
2. 株と同じように取引時間中は値が動き、その間いつでも取引ができる。
3. 指数を構成する銘柄を組入れるので、非常に多くの銘柄を持つ分散効果があり、分散するほどリスク低減効果がある。全世界をカバーするETFになると、3000銘柄近く保有するETFもある。
4. 株式、債券、金、原油、商品、不動産など、組入れ資産は多岐にわたる。
5. 株式ETFは企業の株式を組入れ、対象は国別、地域別、業種別、環境、水、省エネルギーなどのテーマ別、企業規模別など、多岐にわたる。
6. 債券ETFは先進国国債、新興国債券、投資適格・不適格債券、米国債のなかでも年限別など、さまざまである。
7. 金ETFは、657億ドルの残高を誇るものもあり、流動性が高く、非常に有用な金への投資ツールになっている。



また、ETFには、一般の投資信託に比べて、次のメリットがあります。

1. 銀行や証券の店頭で販売される投資信託は、1日の一定時刻の基準価格でのみ取引できるが、ETFは取引所の取引時間中いつでも取引できる。

2. 一般の投資信託に比べコストが安い。販売手数料が、一般の投資信託では3.15%~4.2%程度かかるが、ETFはせいぜい1.5%にとどまり、オンライン証券を使えばさらに大幅に安くなる。また、信託報酬は、一般の投資信託の場合、年率1.05~2.1%程度かかるが、ETFの場合、安いもので0.09%、最も高いもので0.99%程度(平均で約0.4%)と、大幅にコストが安い。毎年1%以上のコスト差は、時が経過すると非常に大きいものになる。

3. 指数に連動するように組入資産を入れるだけなので、また資産の流入出が比較的安定しているため、資産を売買する取引頻度や取引額が少なく、取引コストが抑えられる。

4. 株式ETFで、国別、地域別などのETFを購入すれば、簡単に低コストで世界全域に投資することが可能。債券でも、全世界のさまざまな信用度の債券への分散投資が可能になる。コモディティでは、原油、鉱物資源、農産物など、投資しにくい資産への投資が容易にできる。各国の不動産への投資も、不動産ETFに投資することにより簡単にできる。一つの土地やビルへの集中投資、信用リスク、管理コストなどの心配がない。

5. ETFに組入れられている株式の配当金や債券の利金は、すべてETFの分配金という形で分配され、元本を削って分配されることはなく、大変明解になっている。

6. 課税上、債券ETFでも株式投資信託の取扱いになり、債券を持っている場合の利金が20%源泉徴収されるのに比べ、非常に有利である。株と同じように、証券の優遇税制がすべて使える。

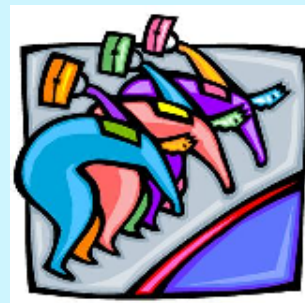
2ページに続きます。

31年ぶりの貿易収支赤字が意味するもの

いよいよ、日本は大きな転換点に立たされていると、いってよいでしょう。戦後、輸出によって経済を成長させてきた日本が、貿易赤字に転じたのです。これを、大震災や原発問題、タイの洪水などの特殊要因に帰するのは、今後の日本の趨勢を見誤るものです。

この貿易赤字は、まず日本企業の競争力が急速に落ちていることが上げられます。最近、パナソニックやシャープが液晶テレビで巨額の償却損を計上したり、NECが1万人に及ぶ人員整理に入ったり、野村が海外のオペレーションで巨額の損失を出したりしているのは、すべて外のライバルに負けているからです。

世界は急速なグローバル化の中で、競争はますます激しさを増しています。



また、わが国は、輸出型経済ではなくなっていく姿が見えてきます。超円高により海外に製造拠点を移し産業は空洞化し、外から外への「輸出」が多くなり、さらに外から日本に輸入するという動きまで、すでに自動車で起きています。少子高齢化により生産年齢層が減少することも、外からの調達(輸入)を誘発します。

日本は、いよいよ成熟型経済に移行し、蓄えてきた資産を直接投資、海外M&A、証券投資によって利子や配当収入を獲得する対外投資型経済に転換すべき時期に来ていると、いってよいでしょう。

今月の言葉:

-人生は心一つの置き所。人間の心で行なう思い方、考え方が、人生の一切を良くも、悪くもするというのが人生支配の根本原則である。
中村天風-運命を拓く



弊社から皆様への情報提供ソース:

びとうファイナンシャルサービス公式ホームページ

<http://www.bfsc.jp>

びとうファイナンシャルサービス公式ブログ

<http://ameblo.jp/bitofinancialservice/>

毎週3分で、資産運用の成功へ導くメルマガ!

申し込みは <http://www.bfsc.jp/mailmagazine/>

書評ブログ-平日毎日更新

<http://blog.goo.ne.jp/dreamct-1>

Web サイトもご覧ください
<http://www.bfsc.jp>

発行者 びとうファイナンシャルサービス株式会社(BFS)

代表取締役 尾藤 峰男

〒105-0022

東京都港区海岸1-2-20

汐留ビルディング3階

電話: 03-6721-8386

携帯: 090-4934-3121

FAX: 050-3156-1072

電子メール: info@bfsc.jp

お客様の人生に豊かさを、心に安心とゆとりを
-びとうファイナンシャルサービスの大切な役割



上場投資信託(ETF)は資産運用の便利なツール

投資信託には、分類の仕方として、大変重要な分け方があります。一つは、基準となる指数(ベンチマーク)を上回ろうとする運用方法(積極運用型)、もう一つは、ベンチマークどおりに連動することを旨とする運用方法(受動運用型)です。

米国での調査では、10年間の運用成果で75%の積極運用型投資信託が、受動運用型投資信託に負けているという結果が出ています。こうなる背景には、以下の要因が上げられます。

1. 販売手数料や信託報酬が高く、コスト高が運用成果の足を引っ張る。
2. 積極型運用の場合、取引頻度や取引高が多く、売買による株価へのインパクトが大きくなり、安く売り、高く買う結果になる。
3. 取引頻度や取引高が多くなれば、売買手数料がかさんで、運用成果の足を引っ張る。
4. 運用担当者の運用能力が長く市場平均を上回り続けることは、むずかしい。
5. リサーチ部門、運用管理部門、コンプライアンス(法令順守管理)部門などの運営コストもついてくる。

ETFなどの受動型運用投資信託の運用成果が勝るのは、ベンチマーク指数通りに運用することで市場平均の運用になり、取引頻度や取引高が少ないので取引コスト、管理コストが少なく、さらに手数料が安く、運用成果の足を引っ張らないというトータルメリットが反映されるからです。

積極型運用でベンチマーク指数を上回ろうとしても、それを上回る人がいれば、必ず上回らない人がいて、長年ずっと上回り続けるのは、至難の業です。ならば、ずっと市場平均を維持し、コストを安くして安定した運用成果を目指すほうが、長期の資産運用に向いているということになります。

なお、ここで強調しておきたいのは、証券会社や銀行は、ETFや指数連動型の投資信託は手数料が安い(実入りが少ない)ので、お客様に積極的に勧めないということです。人気になっているテーマ(すでに高くなっている)で売りやすく、さきほどの販売手数料3.15~4.2%、信託報酬1.5~2.1%程度の高いコスト(彼らにとって実入りがいい)の投資信託を、リスクが高くて、どんどん勧めるのです。また、一般のFPも、ETFを勧めたがりません。手数料の一部がキックバックされる契約先の金融機関の投資信託やヘッジファンドを勧めないと収入にならないからです。いつまでたっても、びとうファイナンシャルサービスがすすめるETFは、お客様の前に出ないのです。

また、個人でETFを買えばそれですむというものではなく、リスク許容度とリターン目標や適切な分散の仕方、資産構成などを、非常に綿密に検討して、一貫して長期に継続する必要があります。私ども、びとうファイナンシャルサービスは、これらを十分勘案し、お客様にもっとも望ましい資産運用の形を提供しています。

第12回『退職金や金融資産をしっかりと運用するためのセミナー』開催！

-こうすればセカンドライフを豊かに過ごすことができる-

混迷の世の中、本当のことを知ることが難しくなっています。特に資産運用は、情報があふれかえり、中でも手数料収入を何とか取り込もうとしてリスクの高い金融商品売り込む金融機関や証券会社、FX会社、商品先物会社の営業活動は激しくなっていて、利用者が本当に正しい資産運用の方法を学ぶ機会は、大変限られています。

これからの人生は、国の制度や周囲に頼ることはできません。自分でしっかり判断して、人生を切り開いていく必要があります。資産運用もまさにその通り。このセミナーで、人生を安心して過ごすことができる「正しい資産運用法」を、ぜひ学んでください。きっとかけがいのない時間となることでしょう。

～参加無料 限定10名～

日時：2012年2月25日(土) 15:00～17:00

場所：TKP東京駅丸の内会議室ミーティングルームC(日比谷帝劇ビル地下1階)

<http://tkpteigeki.net/access/index.shtml>

(最寄り駅：有楽町・日比谷駅)

申し込みは、下記メールまたは電話にて「2月25日セミナー参加希望」として、お名前とご連絡先をお知らせください。

E-メール： info@bfsc.jp

Tel: 03-6721-8386

講師：尾藤 峰男 びとうファイナンシャルサービス代表取締役

講師プロフィール：

米国CFA協会認定証券アナリスト、CFPR、日本証券アナリスト協会検定会員、1級FP技能士、金融機関から完全独立のFP・資産運用アドバイザーとして、個人の金融資産や退職金の運用助言・ライフプランニングサービスを提供する。2000年当社設立。グローバルな投資理論や外国株投資・国際分散投資への造詣が深い。日本経済新聞、週刊東洋経済、日経マネーなどへのコメント多数。日経CNBCにもたびたび出演。著書に「いまこそ始めよう 外国株投資入門」日本経済新聞出版社。投資助言・代理業として関東財務局登録。



◆ このセミナーで「セカンドライフを豊かに過ごすための資産運用法」がわかる！ ◆

30年以上の経験と資産運用の頂点の資格を持つ、金融機関から完全独立のFP・資産運用アドバイザー尾藤 峰男だからこそ語ることのできる「セカンドライフを豊かに過ごすための資産運用法」をお話します。

日本の将来が不透明で、先行き閉塞感がつの中、老後や家族の将来はどうなるか、一人で考えめぐねていても、解決の糸口はなかなか見つかりません。

証券会社や銀行に相談しても、本当に役に立つ情報は提供してくれません。自分たちが売りたい商品のための情報しか話さないのです。

一度きりしかない人生を幸せに生きるために、資産運用で失敗はできません。金融機関から完全独立で、お客様の利益を最優先におくびとうファイナンシャルサービスだからこそお話できることがあります。土曜の午後のひと時を、「本当の資産運用とは」を学び、セカンドライフを豊かに過ごすために使ってみませんか。